



大江医家 史料館へ 行ってみよう

「医は不仁の術、
務めて仁をなさんと欲す」



医療法人玄真堂
川島整形外科病院
理事長 川島真人

平成16年(2004)7月21日、中津市鷹匠町に開館した中津市歴史民俗資料館分館大江医家史料館は、同市内の村上医家史料館に次ぐ二番目の医家史料館で、中津藩藩医を代々務めた大江家の史料を中心に幕末の種痘から田原淳に至る明治前後の医学史料が展示されている。

大江家は、中津市内の蛸瀬町(当時大江村)に居住していた大江五郎衛門(範行)(1685~1732)をもつて家祖としている。五郎衛門の祖先は、延元4年(1342)頃中津に土着し、丸山城を有していた大江備中守孝範といわれている。天正15年(1587)、黒田孝隆如水は豊前六郡(京都、築城、仲津、上毛、下毛、宇佐)を秀吉より与えられた。孝隆は初め、京都郡馬ヶ岳城、次いで宇佐郡時枝城に移り、次いで現在の中津城になっている大江氏の居城丸山城を攻めた。攻められた大江一族は蛸瀬川一帯に移り住み、代々医師をなすものが多く出た。付近一帯は大江村と呼ばれ1822年、



大江雲澤

藩主奥平昌高の命により「中津バスタード辞書」を編纂した大江春塘も京町の大江家として代々医家をなしてきた。

大江五郎衛門の子、玄仙(1710~1792)は、範満または寿漢翁とも称され宝暦4年(1754)、長崎に赴き島田道碩の下で栗崎流の金瘡外科を学び、「金瘡外科一流之事」と記載された免許状を授与された。

栗崎道喜(1582~1665)は、天正10年(1582)肥後国宇土郡栗崎村で生まれ、幼時に長崎に移りその後、ルソンに渡ったと伝えられる。医学を志し、特に外科

を専門に修めた。帰国後は長崎万屋町において開業、特に金瘡外科を得意とし、南蛮流栗崎流外科の創始者とされる。

筆者の祖先の墓に川島道庵の墓があり、栗崎流右傳流を学び宝暦11年6月2日、逝去とされていることからすると同時代に中津藩から複数の医師が栗崎流を学んでいたことが考えられる。

五代大江雲澤(範治、達義清)(1822~1899)は、天保12年(1841)、華岡医塾大坂分塾合水堂入門、青洲の弟華岡準平に医学を学んだ。明治4年、中津医

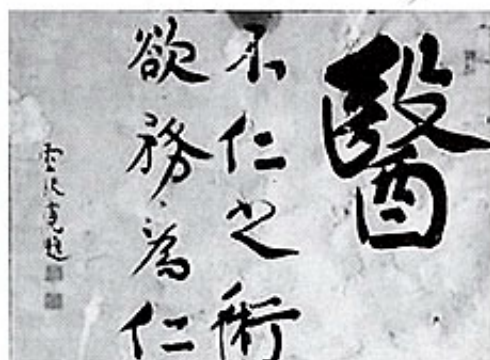


大江医家史料館全景

学校校長として学校を經營した。「医は不仁の術、務めて仁をなさんと欲す」という医訓が残っている。

中津市内の大江家（大江医家史料館）には華岡青洲の画像と手術書（青洲所診画像）が発見された。百石取りの中津藩医となった雲澤の医術と人柄を慕って多くの患者が押

し寄せ、萩、秋月、阿波、肥後などから44名の入門者があつた。1871年、奥平旧藩主は米百25俵を提供して、片端町に大分県最初の中津医学校を設立、校長に大江雲澤、教頭に大江春水、病院長に藤野玄洋（後に大分医学校を建白、春帆楼創始者）が就任した。



雲澤は、当時権威あると称せられていた中国の医書に基づいて治療したところ、胸痛、吐血、鼻出血がおこり、大変な目にあつたことから医のリスクマネジメントについて述べている。

まず、第一に権威ある医書に書いてあるからといって、かるはずみにその通り医術を施すと大変な副作用が出て患者の病気をさらに悪化させてしまうことがあるので、自分の経験、ただでなく先輩の意見や経験によく耳を傾けて、知識と経験を積まなければならぬ。

第二に「医は不仁の術（仁ならざるの術）、務めて仁を

なさんと欲す」すなわち医術とは必ずしも仁術では無く、副作用のために患者を苦しめることもある。仁術たらしめるためにはよく研究して情報を集め、経験を積んで大いなる努力をしなければいけない。

第三に実中に虚を察し、虚中に実を察す、医はなおいくさ（兵）のごとし。

第四に病に対して、利を圖り、名を好み、インチキをしてはならない。己の蓄財のためではなく、天地大自然の命の営みを助けるためのものである。

雲澤が師と仰いだ華岡青洲の輝かしい業績も、20年にわたる実験、しかも妻は盲目、母親は死去といういたましい犠牲の上に成立したものである。雲澤が「医は不仁の術」と述べたのも、師の青洲の厳しい不幸な経験を聞き及んだためであろう。

江戸時代に既に医のリスクマネジメントを称えた大江雲澤の家は江戸時代そのままに修復され、2004年7月に大江医家史料館として、中津

市鷹匠町に開館した。代々の大江家に伝わる、「解体新書」を初めとする1000点以上の史料が展示され、裏庭には私たち「キャラバン中津」がボランティアで植栽し始めた薬草園も復元されつつある。雲澤と外科医の歴史を学ぶにはふさわしい環境である。

今回の「骨髄炎友の会」には、この史料館をご案内したいと思っておりますので大勢の参加を期待しています。

〈参考文献〉

川島眞人著

『医は不仁の術、務めて仁をなさんと欲す』

1996年

西日本臨床医学研究所

